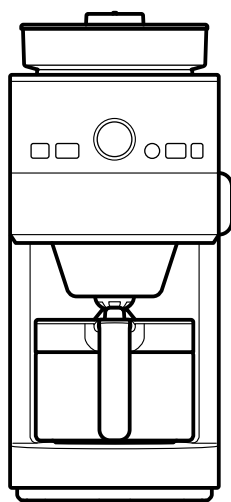


コーン式全自動コーヒーメーカー

SC-C111



取扱説明書 保証書つき

このたびはsiroca コーン式全自動コーヒーメーカー SC-C111をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

この商品を安全に正しくお使いいただくために、お使いになる前にこの取扱説明書をよくお読みになり十分に理解してください。

お読みになった後は、お手元に置いて保管してお使いください。

※この取扱説明書の内容は改善のため、予告なく変更することがあります。

この製品は家庭用です。

業務用にはお使いにならないでください。

日本国内専用

USE ONLY IN JAPAN

もくじ

| | |
|------------------|----|
| 安全上のご注意 | 2 |
| 各部のなまえ | 6 |
| 部品を取り付ける・取り外す | 8 |
| お使いになる前の準備 | 12 |
| コーヒーの基礎知識 | 16 |
| コーヒーを入れる | 18 |
| 使い終わったら | 23 |
| タイマーを使ってコーヒーを入れる | 24 |
| お手入れ | 26 |
| 故障かなと思ったら | 30 |
| 仕様 | 33 |
| 部品・消耗品 | 33 |
| アフターサービス | 34 |
| お客様相談窓口 | 35 |
| 保証書 | 36 |

安全上のご注意

— 必ずお守りください —

ここに示した注意事項は、お使いになるかたや他のかたへの危害と財産への損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために重要な内容を記載しています。お使いになる前によくお読みになり、記載事項を必ずお守りください。

表示の説明



警告

取り扱いを誤った場合、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。



注意

取り扱いを誤った場合、傷害を負う、または物的損害が発生することが想定される内容です。

図記号の説明



禁止(してはいけない内容)を示します。



強制(実行しなくてはならない内容)を示します。



警告

本製品の取り扱いについて



分解禁止

分解、修理や改造を絶対に行わない

発火・感電・けがの原因になります。
修理は、お買い上げの販売店または弊社サポートセンターにご相談ください。



禁止

子どもだけで使わせたり、幼児の手の届くところで使わない

感電・けがの原因になります。



水ぬれ禁止

本体を水につけたり、本体や操作部に水をかけたりしない

ショート・感電の原因になります。



接触禁止

蒸気口や保温プレートに触ったり、手や顔を近づけない

やけどの原因になります。特に乳幼児には触れさせないように注意してください。



禁止

コーヒーサーバー、バスケット、本体ふたなしで使用しない

やけどの原因になります。



禁止

穴、すき間、開口部に指を入れたり、ピンや針金などの金属物を入れない

火災・感電・やけどの原因になります。



禁止

落としたり、衝撃を加えたりしない

感電・故障の原因になります。



製品に異常が発生した場合は、すぐに使用を中止する

製品に異常が発生したまま使用を続けると、発煙・発火・感電・漏電・ショート・けがなどの原因になります。

<異常・故障例>

- ・電源コードや電源プラグがふくれるなど、変形、変色、損傷している
- ・電源コードの一部や電源プラグがいつもより熱い
- ・電源コードを動かすと通電したりしなかったりする
- ・本体がいつもと違って異常に熱くなったり、焦げ臭いにおいがする
- ・本体が作動しない など

上記のような場合は、すぐに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店または弊社サポートセンターに点検・修理を依頼してください。

警告

電源コード・電源プラグについて



ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグの抜き差しをしない

感電・けがの原因になります。



禁止

電源コードが傷んでいたり、コンセントの差し込みがゆるいときは使わない

感電・ショート・発火の原因になります。



電源プラグは根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全だと、感電や発熱による火災の原因になります。



電源プラグの刃および刃の取りつけ面に付着したほこりはふき取る

ほこりが付着していると、火災・感電の原因になります。



禁止

コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや、交流100V以外での使用はしない

たこ足配線などで定格を超えると、発熱・発火・火災・感電・故障の原因になります。



禁止

電源コード・電源プラグを破損するようなことはしない

電源コードや電源プラグを以下のような状態で使うと、感電・ショート・火災の原因になります。

傷つける、加工する、無理に曲げる、高温部に近づける、ねじる、引っ張る、重い物を載せる、挟み込む など



プラグを抜く

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに必ず電源プラグを持って引き抜く

感電やショートによる発火の原因になります。



プラグを抜く

お手入れをするときは必ず電源プラグをコンセントから抜く

やけど・感電・けがの原因になります。

注意

設置に関する注意事項



禁止

不安定な場所や熱に弱い敷物の上では使わない

転倒によるけが・故障や火災の原因になります。以下のような物の上では使わないでください。毛足の長いじゅうたん、ふとん、プラスチック樹脂 など



禁止

壁や家具の近くでは使わない

蒸気または熱で壁や家具を傷め、変色・変形の原因になります。



禁止

ストーブやガスコンロなど熱源・火気のそばで使わない

変形・故障の原因になります。



水ぬれ禁止

水のかかりやすい場所や、本体の底部がぬれるような場所に置いて使わない

ショート・感電・故障の原因になります。

⚠ 注意

使用上の注意事項



接触禁止

使用中や使用後しばらくは、高温部に直接触れない

高温のため、やけどの原因になります。



禁止

専用のコーヒーサーバー以外は使用しない

発火・故障・やけどの原因になります。



禁止

抽出中にコーヒーサーバーをはずさない

やけどの原因になります。



禁止

コーヒーサーバーをセットしたまま本体を動かさない

コーヒーサーバーが外れて、やけど・けがの原因になります。



禁止

空だきをしない

給水タンクに水が入っていない状態で通電すると、故障・火災の原因となります。



禁止

コーヒーサーバーをセットせずに使用しない

故障・やけどの原因となります。



お手入れは冷えてから行う

高温部に触れ、やけどの原因になります。



長期間使わないときは、電源プラグをコンセントから抜く

長期間使わないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

長期間使わないときは、電源プラグを抜いていることを確認してください。絶縁劣化による感電・漏電・火災の原因になります。



禁止

水以外のものを入れたり、沸かししたりしない

牛乳・紅茶・酒など水以外のものを入れて使うと、故障・汚れ・焦げつきの原因になります。



禁止

コーヒーサーバーを落としたり、かたいものにぶつけたりしない

ガラスが割れて、けがの原因になります。



禁止

コーヒーサーバーが空の状態のまま保温しない

ガラスが割れる原因になります。また、故障・火災の原因になります。



続けてコーヒーをドリップする場合は、「入/切」ボタン押して電源を切って、5分間休ませた後で再び使用する

本体が熱いうちに給水タンクに水を入れたり、本体を動かしたりすると、蒸気や熱湯が噴出して、やけどの原因になります。



禁止

コーヒーサーバーを直火にかけたり、電子レンジで使用したりしない

ガラスが割れたり、取っ手が変形したり、金属部から火花が飛び散るなどの原因になります。



禁止

コーヒーサーバーを冷蔵庫や冷凍庫に入れない

ガラスが破損して、けがの原因になります。



禁止

コーヒーサーバーが熱いうちに水の中に入れたり、水をかけたり、ぬれた場所に置かない

コーヒーサーバーが破損しやすくなります。万が一割れた場合は、破片を取り除くときに手を切らないように十分に注意してください。

⚠ 注意



ミネラルウォーターやアルカリイオン水を使用した場合は、お手入れをこまめにする

本体内部にミネラル成分が附着しやすくなったり、附着したミネラル成分がはがれて本体内のお湯や蒸気の出口をふさぐなど、故障の原因になります。



使用直後の熱い保温プレートの上に電源コードをのせない

電源コードが破損し、火災・感電の原因になります。



給水タンクにMAXの目盛り以上の水を入れない

湯がこぼれたり、本体の底から湯が出てやけどの恐れがあります。



電源コードが通行や動作の妨げになるような場所で使用しない

電源コードが引っ掛かり、製品が落下して、けがや故障の原因になります。



直射日光が長時間あたる場所で使わない

故障の原因になります。



ミルにコーヒー豆以外のものは入れない

故障の原因になります。



水なしで空運転、ミルの連続運転をしない

故障の原因になります。



本体にふきんなどをかぶせない

変形や故障の原因になります。



ミルのお手入れは、必ず付属のお手入れブラシを使用する

けがの原因になります。



保温中に給水タンクに水を追加しない

やけどの原因になります。



他の電気機器に蒸気が当たる場所で使用しない

蒸気により、電気機器の火災・故障・変色・変形の原因になります。



使用中に豆容器ふたやバスケットを開けない

やけどやけがの原因になります。



ドリップ直後にペーパーフィルターを直接接触らない

やけどの原因になります。



使用中に給水タンクを外さない



屋外で使用しない

故障の原因になります。



テーブルなどからはみ出した状態で使用しない

けが・やけどの恐れがあります。



使用中や使用後しばらくはバスケットの下に手を入れない

しずくが垂れて、やけどの恐れがあります。

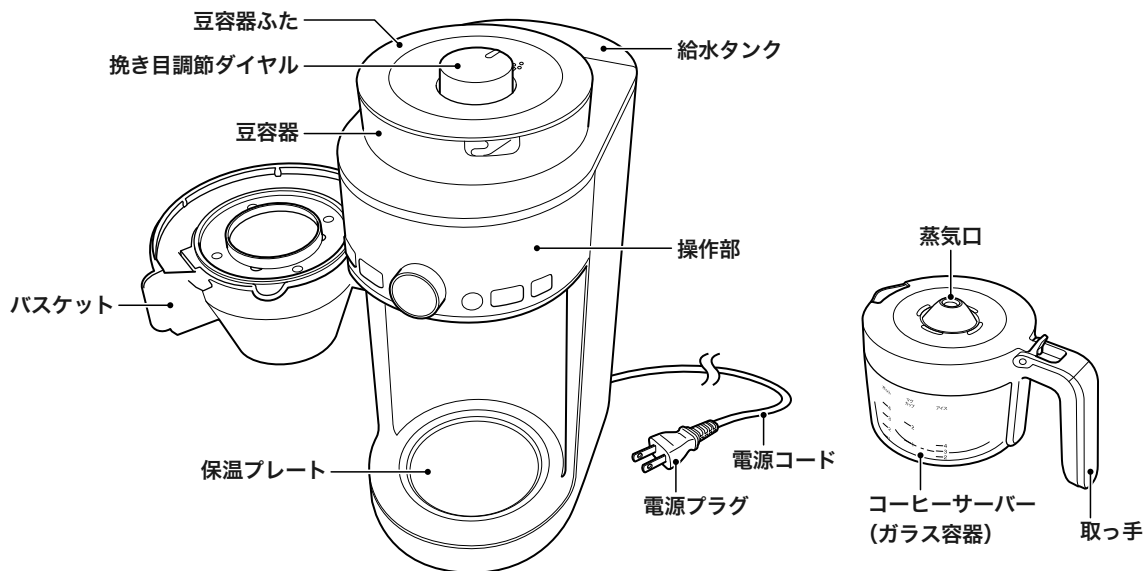


カーペット・布製のテーブルクロスの上では使用しない

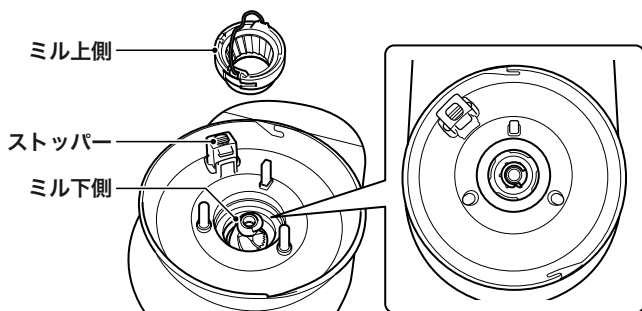
コーヒーが飛び散る恐れがあります。

各部のなまえ

本体



▶ 豆容器内部

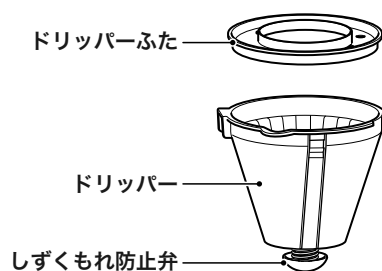


ミル上側・ミル下側について

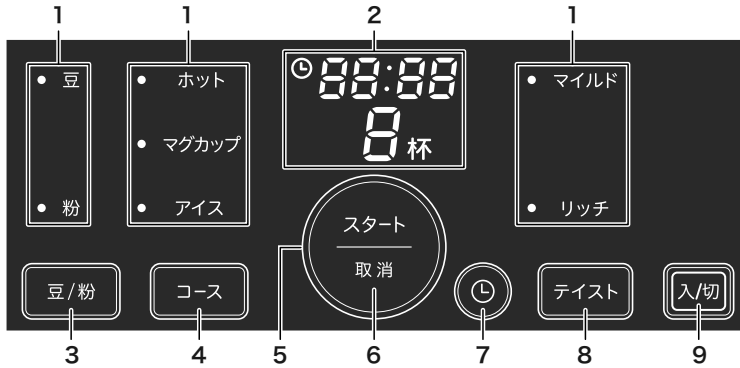
本製品は、すべて工場出荷時にコーヒー豆を使った検査をして性能を確認し、全品清掃をして出荷しています。コーヒー粉がミル上側・ミル下側に付着していたり、コーヒーのにおいが残っていたりすることがございますが、人体への影響はありませんので安心してお使いください。

▶ バスケット内部

ドリッパーには、しずくもれ防止弁がついているため、コーヒーがバスケットからもれ出ないしくみになっています。



操作部



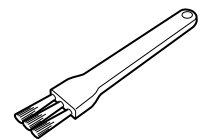
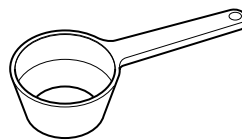
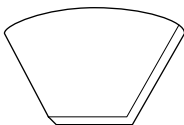
| 名称 | | 説明 |
|----|--------------|---|
| 1 | ランプ | 選んでいる項目のランプが、赤く点灯します。 対応するボタンを押すたびに、選択項目が切り替わります。 |
| 2 | ディスプレイ | 現在時刻、タイマー時刻、カップ数が表示されます。 |
| 3 | 「豆/粉」ボタン | コーヒーを、豆から挽いて入れるか、粉から入れるかを選びます。 |
| 4 | 「コース」ボタン | コーヒーの種類を選びます。 |
| 5 | ダイヤル | 時刻やカップ数を設定するときに回します。 |
| 6 | 「スタート/取消」ボタン | ドリッパーを開始/中止するときに押します。 |
| 7 | ⌚(タイマー)ボタン | タイマーを設定するときや、タイマー運転をするときに押します。 待機状態のときに押すと時刻表示が消灯します。再度押すと点灯します。 |
| 8 | 「テイスト」ボタン | コーヒーの濃さを選びます。 |
| 9 | 「入/切」ボタン | 本体の電源を入れる/切るときに押します。 |

付属品

▶ ペーパーフィルター (5枚)

▶ 計量スプーン

▶ お手入れブラシ



※2～4杯用です。

市販品をご購入の際は、「2～4杯用」のペーパーフィルターをお選びください。
サイズ：(1×2)または(102)

※コーヒーの粉専用です(粉すりきり1杯が約6g、内側の線までが約3g)。

部品を取り付ける・取り外す

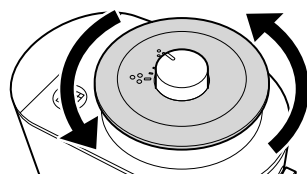
ご注意

- 部品を取り付ける・取り外すときは、「入/切」ボタンを押して、電源を必ず切ってください。
- 使用後は、「入/切」ボタンを押して電源を切り、本体が十分に冷めてから部品を取り外してください。

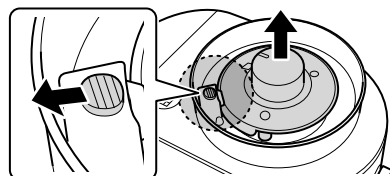
豆容器ふた・挽き目調節ダイヤル

取り外しかた

- ① 豆容器ふたを、反時計回りに回して持ち上げる



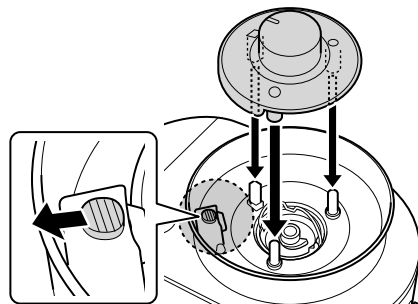
- ② ストッパーを押し込みながら、挽き目調節ダイヤルを持ち上げる



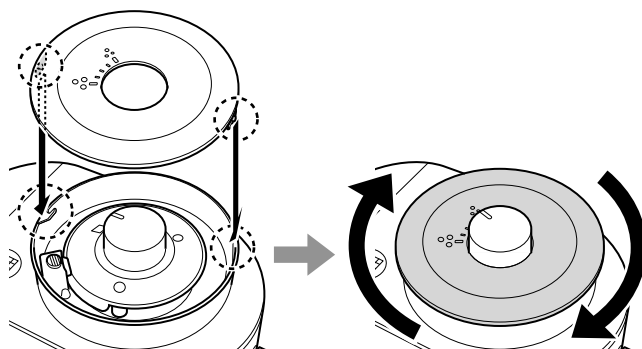
取り付けかた

- ① ストッパーを押し込みながら、挽き目調節ダイヤル裏側の穴(3カ所)を、豆容器内の突起(3カ所)に合わせて差し込む

差し込んだ後、挽き目調節ダイヤルを軽く動かして、空回りしたり外れたりしないこと、またストッパーに確実に入っていることを確認してください。



- ② 豆容器ふた側面の突起を、豆容器の溝に合わせてはめ込み、時計回りに止まるまで回す

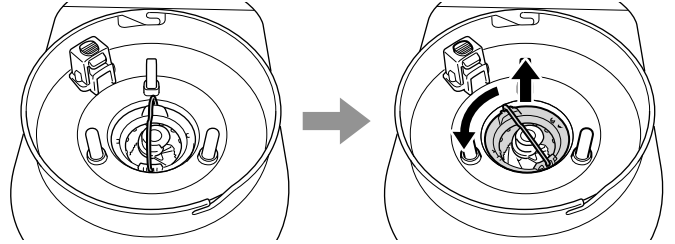


ミル上側

取り外しかた

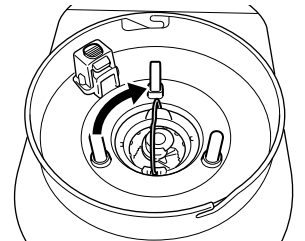
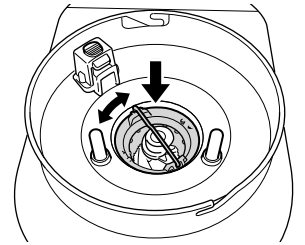
あらかじめ、豆容器ふたと挽き目調節ダイヤルを取り外してください。

- 1 ミル上側の取っ手を反時計回りに止まるまで回してから持ち上げる



取り付けかた

- 1 ミル上側をミル内部に差し込んでから軽く回して、奥まではまる位置に合わせる
- 2 取っ手を時計回りにカチッと音がし、止まるまで回す
取っ手を軽く引っ張って、ミル上側が抜けないことを確認してください。



| 部品を取り付ける・取り外す

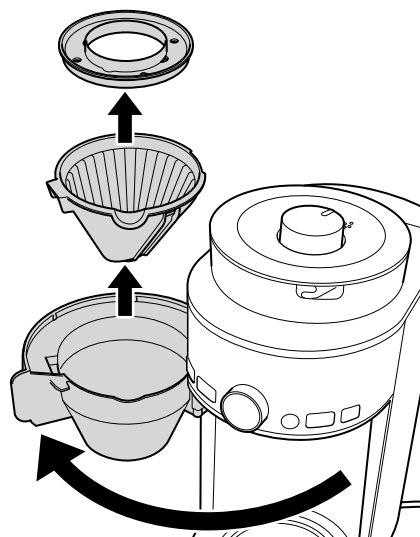
ドリッパーふた・ドリッパー

ご注意

- ドリップ中は絶対にバスケットを開けないでください。
やけど・けがの原因になります。

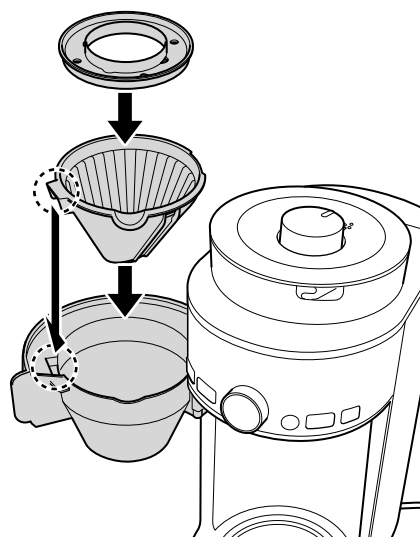
取り外しかた

- 1 バスケットを開けて、
ドリッパーふたとドリッパーを持ち上げる



取り付けかた

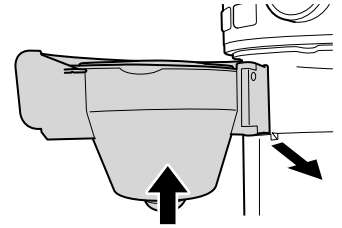
- 1 ドリッパーの凸部と、
バスケットの凹部を合わせる
続けて、ドリッパーふたを取り付けます。



バスケット

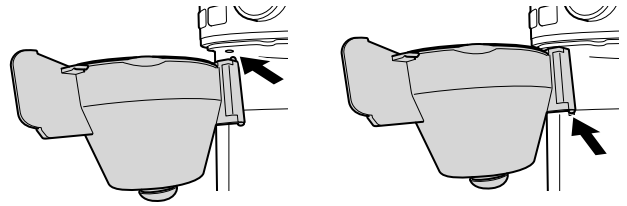
取り外しかた

- 1 バスケットを全開にする
- 2 バスケットを押し上げてから、バスケットの下側を手前に引く



取り付けかた

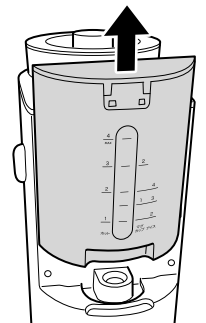
- 1 バスケットの上側の突起を本体上部の穴に差し込み、バスケットの下側の突起を本体の溝に差し込んでから、バスケットを強く押し込む



給水タンク

取り外しかた

- 1 給水タンクの底部をつかんで持ち上げる



取り付けかた

- 1 本体に沿って、給水タンクを差し込む
給水タンクと本体との間にすき間がなくなるまで、しっかりと押し込んでください。

| お使いになる前の準備

時計を設定する

タイマーを使うには、時計の設定が必要です。電源プラグをコンセントに差し込んだら、はじめに時計を設定してください。

1

電源プラグをコンセントに差し込む

電源プラグは、コンセントの奥まで確実に差し込んでください。

電源プラグをコンセントに差し込むと、自動で時計の設定モードになり、「00」が点滅します。



時計を設定しない場合は

「スタート/取消」ボタンを押して、時計の設定モードを終了します。

※現在時刻を設定しないと、「00:00」から時計のカウントが開始されますので、はじめに時計を設定することをおすすめします。

2

時計の「時」を設定する

ダイヤルを回して「時」を合わせたら、⌚(タイマー)ボタンを押して確定します。



3

時計の「分」を設定する

ダイヤルを回して「分」を合わせたら、⌚(タイマー)ボタンを押して確定します。

約3秒後、「:」のみが点滅すると、設定は完了です。



ご注意

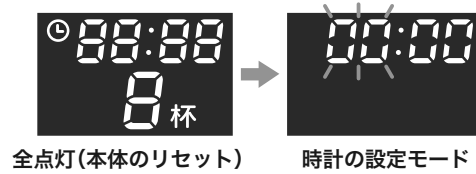
- 電源プラグをコンセントから抜いたときや、停電によって電源が遮断されたときは、時計の設定がリセットされます。時計がリセットされたときは、時計を設定しなおしてください。

時計を再設定する

時計がずれている場合は、下記の方法で本体をリセットして時計を設定しなおしてください。

① 「入/切」ボタンを5秒以上長押しして、本体をリセットする

本体がリセットされると、ディスプレイが全点灯した後、時計の設定モードに切り替わります。



② 時計を設定する

➔ 「時計を設定する」手順②以降 **12ページ**

| お使いになる前の準備

本体の内部を洗浄する

本製品をはじめてお使いになる場合、またはしばらくお使いになっていなかった場合は、本体の内部にほこりやごみなどが付着している可能性があります。以下の手順で本体の内部を洗浄してからお使いください。

ご注意

- 本体の内部を洗浄するときは、コーヒー豆・コーヒー粉を入れないでください。

① 水洗いできる部品は、本体から取り外して洗う

➔ 「部品を取り付ける・取り外す」 8ページ

➔ 「お手入れ」 26ページ

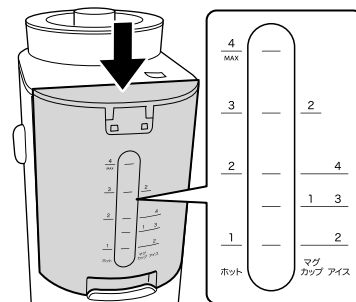
② 洗った部品の水気を十分に切ってから、本体に取り付ける

➔ 「部品を取り付ける・取り外す」 8ページ

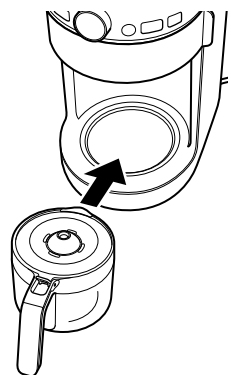
内部の洗浄には水のみを使います。コーヒー豆・コーヒー粉は入れないでください。

③ 給水タンクのMAXの目盛りまで水を入れて、本体に取り付ける

➔ 「取り付けかた」 11ページ



④ コーヒーサーバーを保温プレートにセットする



⑤ 「入/切」ボタンを押して、電源を入れる

電源が入ると、すべての操作ボタンが点灯します。

- 6** 「豆/粉」ボタンを押して、「粉」を選ぶ
ボタンを押すたびに、選択項目が切り替わります。「粉」ランプを点灯させてください。



- 7** 「スタート/取消」ボタンを押して、ドリップを開始する
ドリップが始まるとブザー音が鳴って、「スタート/取消」ボタンが点滅します。
ドリップが終わるとブザー音が鳴って、「スタート/取消」ボタンが消灯します。自動で保温が始まります。
- 8** ドリップが終了したら、「スタート/取消」ボタンを押して保温を切る
- 9** 本体が冷めるまで約30分待ってから、コーヒーサーバーのお湯を捨てて水ですすぐ
- 10** 手順③から手順⑨を、1回～2回繰り返す

プラスチック特有のにおいがする場合は

使いはじめのうちは、本体のプラスチック部分が熱で温められることにより、プラスチック特有のにおいがすることがあります。

お使いになるうちに少なくなります。気になる場合は1～2回水だけでドリップしてからお使いください。それでも気になる場合は、クエン酸洗浄を行ってください(27ページ)。

| コーヒーの基礎知識

理想の一杯を見つけるために、コーヒーの基礎知識を少しだけ紹介します。

POINT1 コーヒー豆の購入と保存

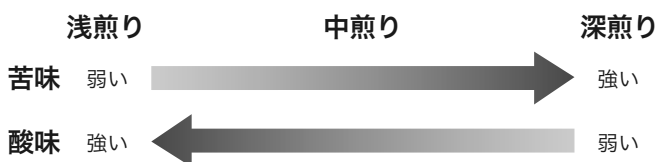
新鮮なコーヒー豆を、なるべく1週間で飲みきる量だけ購入しましょう。開封後は、密閉して冷暗所で保管しましょう。

本製品では…

本体上部の豆容器に、約100gまでのコーヒー豆を保管できます。

POINT2 焙煎度について

コーヒーの風味は、焙煎の違いで大きく変化します。一般的に、浅煎りは酸味が強く、苦みは少なめ。深煎りになるにつれて、酸味が少なく苦みが強調されていきます。



POINT3 豆を挽く

コーヒー豆は挽いて粉になると、30分程度で味が劣化してしまいます。おいしいコーヒーを飲むためには、入れる直前に挽くことが大切です。

また、コーヒー豆を挽く際は、挽いた粒の大きさが均一になることも重要です。粒の大きさが揃っていないと、抽出にムラが出てしまいます。手回しタイプのコーヒーミルを使う場合は、なるべく同じ速度で回しましょう。

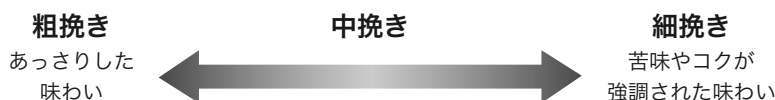
本製品では…

豆を均一に挽けるコーン式ミルによって、コーヒーを入れる直前に豆を挽きます。

そのため、挽きたての香りと新鮮でおいしいコーヒーが楽しめます。

POINT4 粒度による味の変化

挽いたコーヒー豆の粒の大きさがちがいで、味わいは変化します。細挽きになるほど、粒の表面積が広くなり、お湯と接触する面積が多くなるので、コーヒーの成分が多く抽出される傾向にあります。



本製品では…

本体上部の挽き目調節ダイヤルで、細挽き～粗挽きまで、無段階に調節できます。

お好みで粒度を調節して、味わいの変化をお楽しみください。

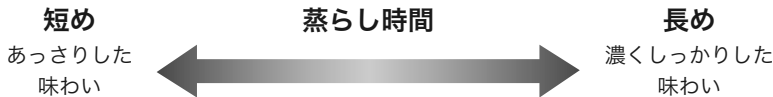
POINT5 フィルターの種類

ドリップコーヒーを入れるための、代表的な3種類のフィルターをご紹介します。

- ペーパーフィルター：ペーパーが油脂分やアクを吸着するため、クリアな味わいになります。コーヒーを入れた後はフィルターごと捨てるだけなので、後片付けも簡単です。
- ステンレスフィルター：メッシュが金属のため、コーヒーオイルまで抽出できることが特徴です。豆の個性をダイレクトに味わいたいときは、ぜひステンレスフィルターで入れてみましょう。洗剤で洗えるため衛生的で、繰り返し使えることもメリットです。
- 布フィルター：布フィルターを通すことで生まれる、まるやかさや口あたりの良さが特徴です。水洗いをして繰り返し使えますが、お手入れや保存に手間がかかります。

POINT6 蒸らし時間

コーヒーのおいしい成分を十分に引き出すためには、蒸らし時間をしっかりとることが大切です。抽出前に少量のお湯でコーヒーを湿らして、じっくり蒸らします。するとコーヒーに含まれるガスが放出され、コーヒーが膨らみます。この工程でコーヒーとお湯がなじみ、コーヒーの成分が出やすくなります。同じ豆でも、蒸らし時間で味わいが変わります。蒸らし時間を短くすると比較的あっさりした味わいに、長くすると濃くしっかりした味わいになります。



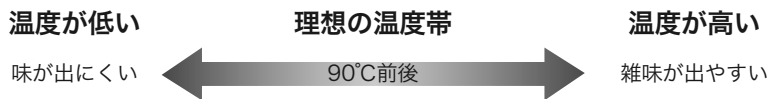
本製品では…

「テイスト」ボタンで、「マイルド」か「リッチ」を選択することで、二つの味わいを楽しめます。

POINT7 適切な温度で入れること

諸説ありますが、コーヒーを入れるのに理想の温度は90°C前後です。温度が低いと味が出にくく、高すぎると旨み以外の雑味も出てしまいます。

ハンドドリップの場合は、沸騰したお湯をケトルに移し替えた温度が、ちょうど良いとされています。



POINT8 出来上がったコーヒーは、なるべく早く楽しんで

コーヒーの飲み頃の温度は68～70°Cといわれています。60°Cより冷めてしまうと美味しさを感じにくくなるので、コーヒーを入れたら温かいうちに飲みましょう。あらかじめカップを熱湯などで温めておくと、よりおいしくお召し上がりいただけます。

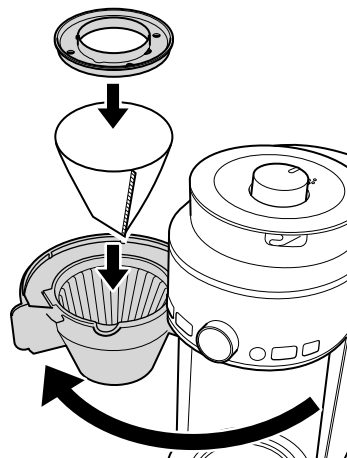
コーヒーの好みは千差万別。味を変化させるコツをつかんで、自分の理想の一杯を見つけてください。

1 コーヒーを入れる

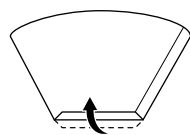
1

ペーパーフィルターを取り付ける

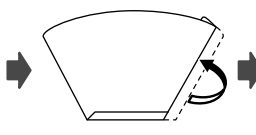
- 1 バスケットを開ける
- 2 ドリッパーふたを取り外して、ペーパーフィルターをドリッパーに取り付ける
- 3 豆からコーヒーを入れる場合は、ドリッパーふたを取り付けて、バスケットを閉める



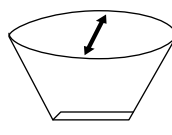
ペーパーフィルターの折りかた



底のシール部分を折り曲げる



側面のシール部分を底と逆側に折り曲げる



内側を広げる

2～4杯用のサイズのペーパーフィルターを使用できます。

2～4杯用サイズ：
(1×2)または(102)

ご注意

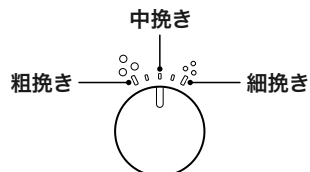
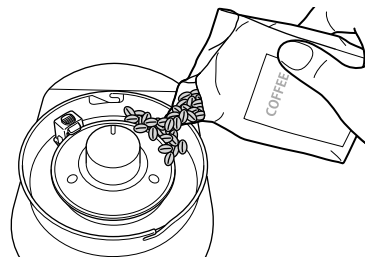
- ペーパーフィルターを必ず取り付けてください。
取り付けないと、ドリップ時にコーヒーがあふれる原因になります。

2

コーヒー豆またはコーヒー粉を入れる

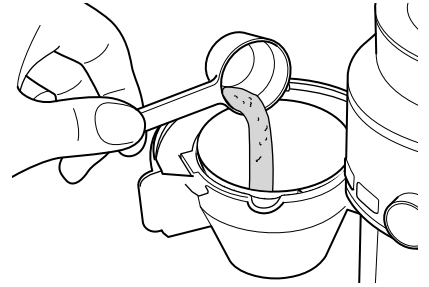
コーヒー豆の場合

- 1 豆容器ふたを取り外す
➔ 「取り外しかた」 8ページ
- 2 豆容器にコーヒー豆を入れる
コーヒー豆はコーヒーを淹れるたびに量って入れる必要がなく、一度に約100gまで入れられる豆容器から、杯数に応じて自動計量します。
- 3 豆容器ふたを取り付ける
➔ 「取り付けかた」 8ページ
- 4 挽き目調節ダイヤルを回して、粒の粗さを設定する



コーヒー粉の場合

- ① 取り付けたペーパーフィルターに、
コーヒー粉を入れる
 付属の計量スプーンは、すりきり1杯が約6g、内側の線までが約3gです。
- ② ドリッパーふたを取り付けて、バスケットを閉める



コーヒー粉の使用量の目安

<ホットコーヒー>

| カップ数 | コーヒー粉の量 |
|------|----------------|
| 1杯 | 12g (付属スプーン2杯) |
| 2杯 | 18g (付属スプーン3杯) |
| 3杯 | 24g (付属スプーン4杯) |
| 4杯 | 30g (付属スプーン5杯) |

<マグカップ>

| カップ数 | コーヒー粉の量 |
|------|--------------------|
| 1杯 | 15g (付属スプーン2+1/2杯) |
| 2杯 | 24g (付属スプーン4杯) |

<アイスコーヒー>

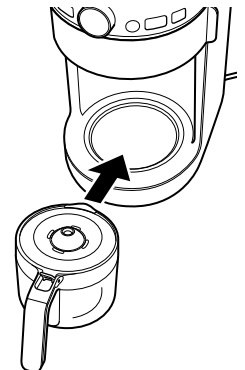
| カップ数 | コーヒー粉の量 |
|------|----------------|
| 2杯 | 18g (付属スプーン3杯) |
| 3杯 | 24g (付属スプーン4杯) |
| 4杯 | 30g (付属スプーン5杯) |

ご注意

- 豆容器ふた・豆容器・ドリッパーふた・ドリッパーがぬれている場合は、水気を充分にふき取ってください。
 コーヒー豆が付着して豆容器に残る原因になります。
- 湿ったコーヒー豆を入れないでください。
- 作るカップ数によっては、容器内にコーヒー豆が残る場合があります。

3

コーヒーサーバーを保温プレートにセットする



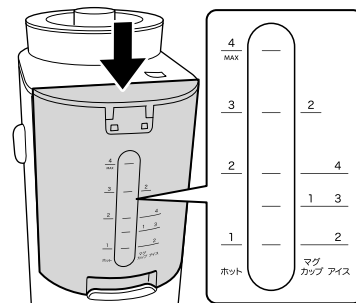
4

給水タンクに水を入れ、 本体に取り付ける

→ 「取り外しかた」 11ページ

→ 「取り付けかた」 11ページ

- コーヒーの種類とカップ数に応じた目盛りの位置まで、水を入れます。
- ドリップは、給水タンク内の水をすべて使いきります。給水タンクには、1回にコーヒーをドリップする水を入れてください。
- 給水タンクを本体に取り付けた後は、本体内部に水が流れ込むため、目盛りより水位が下がります。



ご注意

- 給水タンクにお湯を入れないでください。
- 給水タンクを本体に取りつけた状態で、水を入れないでください。
本体内部に水が流れ込むため、規定量より多く水が入ります。
- MAXの目盛り(ホットコーヒー 4杯分)以上の水は入れないでください。
ふきこぼれの原因になります。
- 最低の目盛り(ホットコーヒー 1杯分)より多くの水を入れてください。
空だきすると、故障の原因になります。
- 給水タンクを本体に取り付けた後は、本体から取り外さないでください。
給水口から水がこぼれて本体内部に入り、故障の原因になります。

5

「入/切」ボタンを押して、電源を入れる

- 操作部が点灯し、前回のドリップの設定が表示されます。



6

ドリップの設定をする

| | |
|-----------|--|
| 「豆/粉」ボタン | <ul style="list-style-type: none"> ・「豆」：豆からドリップする ・「粉」：粉からドリップする |
| 「コース」ボタン | <ul style="list-style-type: none"> ・「ホット」：ホットコーヒー（約120 mlのコーヒーカップ） ・「マグカップ」：ホットコーヒー（約180 mlの大き目のカップ） ・「アイスコーヒー」：アイスコーヒー |
| 「テイスト」ボタン | <ul style="list-style-type: none"> ・「マイルド」：普通 ・「リッチ」：濃いめ |
| カップ数* | ダイヤルを回して設定します（「豆」から抽出するときのみ） <ul style="list-style-type: none"> ・「ホット」：1杯～4杯 ・「マグカップ」：1杯～2杯 ・「アイス」：2杯～4杯 |

* カップ数について22ページの「カップ数のしくみについて」を参照してください。

操作部が消灯したときは

約5分間なにも操作しないと、操作部が消灯して待機状態になります。「入/切」ボタンを押すと、再点灯します。

7

「スタート/取消」ボタンを押して、ドリップを開始する

- ブザー音が鳴って、ドリップが始まります。ドリップ中は「スタート/取消」ボタンが点滅します。
- ドリップを中止したいとき（「豆」と「粉」を間違えた場合など）は、再度「スタート/取消」ボタンを押します。

ご注意

- ドリップ中は絶対にバスケットを開けないでください。
お湯や高温の蒸気が出てくるため、やけど・けがの原因になります。

8

ドリップが終了したら、コーヒーを注ぐ

- ドリップが終了すると、ブザー音が鳴って「スタート/取消」ボタンが消灯します。
- ドリップ後30分間は、自動で保温されます。保温を終了するには、「入/切」ボタンを押して電源を切ります。
- あらかじめカップを熱湯などで温めておくと、よりおいしくお召し上がりいただけます。

ご注意

- ドリップ直後のコーヒーサーバーは高温になっています。コーヒーサーバーを持つときは、必ず取っ手を持ち、ガラス部分には触らないように注意してください。
- コーヒーサーバーの蒸気口からは高温の蒸気が出ます。やけどに注意してください。

| コーヒーを入れる

コーヒーの保温について

ドリップ後30分間は自動的に保温されます。保温のみを行う機能はありません。
コーヒーは長時間保温すると、香りが飛んで風味が悪くなります。なるべく早めにお召し上がりください。

時刻表示を消灯するには

待機状態のときにⓐ(タイマー)ボタンを押すと、時刻表示を消灯させることができます。消灯してもタイマー設定はリセットされません。
点灯させるには、再度ⓐ(タイマー)ボタンを押してください。

カップ数のしくみについて

本機は、カップ数設定にあわせたミルの動作時間を設定しています。そのため、豆容器に入っている豆の量や、豆の大きさによってひかれるコーヒー粉の量が変化することがあります。

▶ コーヒーが濃く感じられるとき

1杯～3杯の場合：水を多めに入れて調整してください。

4杯の場合：21ページ手順6のドリップの設定で、カップ数を「3」にしてください。

▶ コーヒーが薄く感じられるとき

1杯～3杯の場合：21ページ手順6のドリップの設定で、カップ数を多めに設定してください。

アイスコーヒーを作る

1

「コーヒーを入れる」(18ページ)と同じ手順でコーヒーを入れる

コーヒー豆・コーヒー粉は深煎りのものをお使いください。

水は、給水タンクのアイスコーヒーの目盛りに合わせて入れてください。

2

ドリップしたコーヒーを別容器に移し、あら熱を取ってから冷蔵庫に入れて冷やす

ドリップ後すぐにアイスコーヒーを飲みたい場合は、ドリップしたコーヒーを、氷を入れたグラスに注いでください。

あらかじめグラスを冷やしておくと、よりおいしくお召し上がりいただけます。

お好みでシロップやクリームを加えてお召し上がりください。



| 使い終わったら

ご注意

- 使用後は、必ず「入/切」ボタンを押して電源を切り、本体が十分に冷めてから、片づけやお手入れをしてください。

1

「入/切」ボタンを押して電源を切り、本体が十分に冷めるまで待つ(約30分)

2

ドリップ済みのコーヒー豆・コーヒー粉を捨てる

- ① バasketを開けて、ドリッパーふたを取り外す
→ 「取り外しかた」 **10ページ**
- ② ペーパーフィルターを取り出す

ご注意

- ドリップ済みのコーヒー豆・コーヒー粉はBasket内に放置せず、早めにお手入れしてください。
そのまま放置すると、カビや雑菌が発生する原因になります。

3

取り外した部品や、本体のお手入れをする

- 水洗いできる部品は、本製品をお使いになるたびに必ず洗ってください。
→ 「お手入れ」 **26ページ**

| タイマーを使ってコーヒーを入れる

タイマーを使うと、あらかじめ設定した時刻に運転を開始できます。

ご注意

- タイマーを使うには、時計の設定が必要です。あらかじめ設定を行ってください。
→ 「時計を設定する」 **12ページ**

1

部品の取り付けや、コーヒー豆・粉の準備をする

- 「コーヒーを入れる」(18ページ)の手順1～手順4を参照してください。

ご注意

- コーヒーサーバーやペーパーフィルターを必ずセットしてください
セットし忘れると、ドリップ中にコーヒーがあふれ出し、機器の故障・周囲の汚損の原因となります。

2

「入/切」ボタンを押して、電源を入れる

3

ドリップの設定をする

- 「コーヒーを入れる」の手順6 (21ページ)を参照してください。

4

ⓐ(タイマー)ボタンを3秒以上長押しして、タイマー時刻の設定モードに切り替える

- ブザー音が鳴ってタイマー時刻の設定モードに切り替わると、ⓐが点滅します。



5

タイマー時刻を設定する

- ① ダイヤルを回して「時」を設定したら、ⓐ(タイマー)ボタンを押す



- ② ダイヤルを回して「分」を設定する

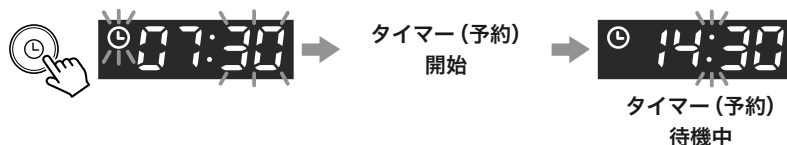
「分」は5分単位で設定できます。



6

⌚(タイマー)ボタンを押して、タイマー (予約)を開始する

- ⌚(タイマー)アイコンとタイマー時刻が点滅から点灯に切り替わり、タイマー (予約)が始まります。タイマー (予約)中は、現在の時刻が表示されます。



- タイマー (予約)中でも、ドリップ設定を変更できます。
- タイマー (予約)の設定時刻を解除(リセット)するには、「スタート/取消」ボタンを押してください。新たに設定をする場合は、「タイマーを使ってコーヒーを入れる」(24ページ)の手順4～手順6を参照してください。

ご注意

- 電源プラグをコンセントから抜くと、時計やタイマー (予約)設定がリセットされるため、タイマー (予約)が実行されません。

タイマー (予約)を繰り返し使うには

一度タイマー時刻を設定すると、電源プラグをコンセントから抜かない限り、設定時刻が記憶されます。

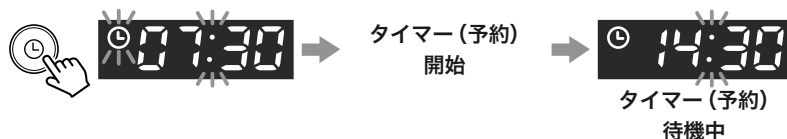
① 「入/切」ボタンを押して、電源を入れる

② ⌚(タイマー)ボタンを押す

⌚と「:」が5秒間点滅します。



③ 5秒以内に⌚(タイマー)ボタンを押して、タイマー (予約)を開始する



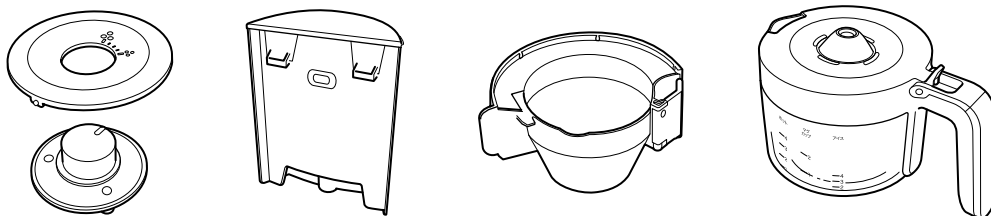
お手入れ

ご注意

- お手入れは、必ず電源を切って本体が冷めた後(約30分後)に行ってください。
高温部に触れると、感電・やけど・けがの原因になります。
- 研磨剤入り洗剤・磨き粉・たわし・ナイロンや金属製のたわしは使わないでください。
表面を傷つける原因になります。
- 台所用中性洗剤以外の洗剤、シンナー・ベンジンは使わないでください。
表面を傷つける原因になります。
- 食器洗い乾燥機・食器乾燥機は使わないでください。
- お手入れした各部品は、充分に乾いてから本体にセットしてください。
水気が残ったまま保管すると、カビや雑菌が繁殖する原因になります。

豆容器ふた・挽き目調節ダイヤル・給水タンク・バスケット・コーヒーサーバー

台所用中性洗剤で洗い、水でよくすすぎます。



給水タンク内部の汚れが気になるとき

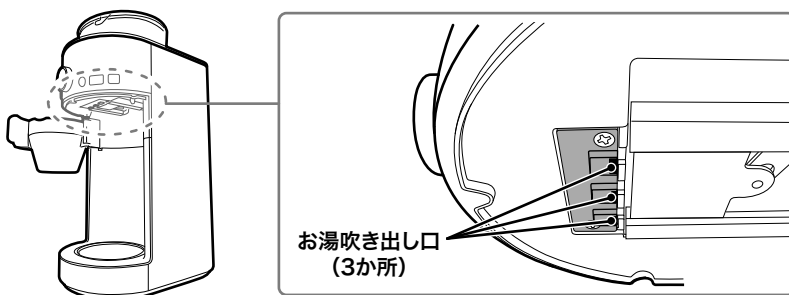
クエン酸 約10gを40°C以下のお湯に溶かしたクエン酸水を給水タンクに入れて、約12時間放置してください。クエン酸はよく洗い流してください。

操作部下側

コーヒー抽出後の操作部下側は、抽出中にはねたコーヒー粉が附着します。定期的に清掃してください。お湯吹き出し口に粉が附着したままコーヒーを抽出すると、お湯の出が悪くなり、ドリッパー内のコーヒー粉が部分的に湿らないことがあります。

ご注意

- 操作部下側は、水洗いできません。



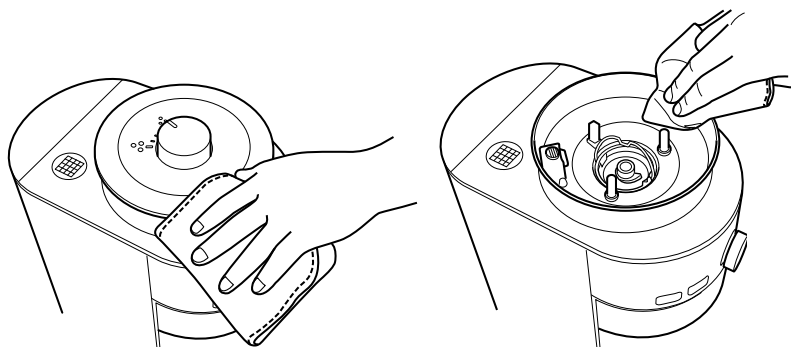
本体外部・保温プレート・豆容器内部

ご注意

- 本体外部・保温プレート・豆容器内部は、水洗いできません。
- 直接水をかけたり、丸洗いしたりしないでください。

汚れ、飛び散った粉を、乾いた柔らかい布で拭いてください。

本体外部・保温プレートの汚れがひどいときは、台所用中性洗剤を薄めた水に布をひたして固く絞り、拭き取ってください。



本体内部のクエン酸洗浄

お湯の出が悪くなったり、ドリップに時間がかかるようになったら、クエン酸洗浄をしてください。ご使用いただいているうちに、水に含まれているミネラル成分(カルシウム・マグネシウム・鉄分など)が本体内部に付着します。これは水アカといわれるもので衛生上問題はありますが、汚れが目立ってきたら、クエン酸洗浄を行って汚れを取り除いてください。

※ミネラルウォーターやアルカリイオン水などミネラル成分を多く含む水を使用している場合は、ミネラル成分が付着しやすくなりますので、こまめにクエン酸洗浄を行ってください。

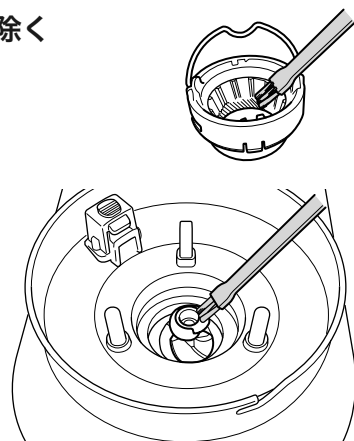
- ① コーヒーサーバーを保温プレートにセットする
- ② 水500 mlにクエン酸(10 g程度)を入れて、かき混ぜて溶かす
計量カップなどを使用してください。
- ③ クエン酸水を給水タンクに入れ、本体に取り付ける
- ④ 「入/切」ボタンを押して、電源を入れる
- ⑤ 「豆/粉」ボタンを押して「粉」を選ぶ
- ⑥ 「スタート/取消」ボタンを押して、ドリップを開始する
ドリップが終了したら、お湯を捨てて、コーヒーサーバーをよくすすぎます。
- ⑦ クエン酸のにおいを取るため、水だけでドリップを2～3回くり返す

お手入れ

ミル上側・ミル下側

ご注意 ● ミル上側・ミル下側は、水洗いできません。さびの原因になります。

- 1 豆容器ふた、挽き目調節ダイヤルを取り外す
→ 「取り外しかた」 **8ページ**
- 2 ミル上側を取り外し、お手入れブラシで粉や破片を取り除く
- 3 ミル下側と周辺の粉や破片を、お手入れブラシでミル内部に掃き落とす
- 4 ミル上側、挽き目調節ダイヤル、豆容器ふたを取り付ける
- 5 空運転を10秒間行い、内部の粉や破片を落とす

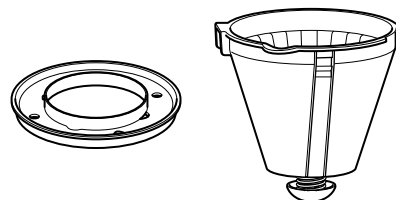


空運転をする

- 1 「入/切」ボタンを押す
- 2 「豆/粉」ボタンを押して、「豆」を選ぶ
- 3 「スタート/取消」ボタンを押して、空運転を開始する
- 4 10秒後、「スタート/取消」ボタンを押して、空運転を停止する

ドリッパーふた・ドリッパー

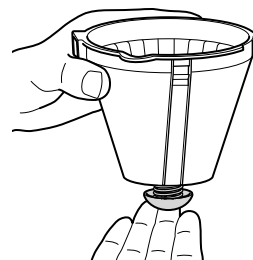
台所用中性洗剤で洗い、水でよくすすぎます。



しずくもれ防止弁のお手入れ

しずくもれ防止弁にコーヒー粉が詰まると、弁が閉まらずにコーヒーがもれることがあります。本製品を使用するたびに、しずくもれ防止弁を必ず洗ってください。ドリッパーに水をためてから、しずくもれ防止弁を2～3回押し上げて、汚れを洗い流します。

しずくもれ防止弁を強く引っ張ると、外れることがあるのでご注意ください。



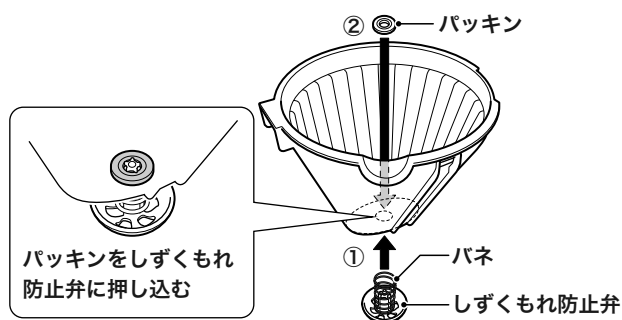
しずくもれ防止弁が外れたときは

以下の手順で取り付けてください。

- 1 しずくもれ防止弁にバネをつけた状態で、ドリッパーの底面から差し込む

- 2 パッキンをしずくもれ防止弁に押し込む

パッキンが手で取り付けにくい場合は、先の長いもの(口の広いストローなど)を使ってください。



故障かなと思ったら

— 修理を依頼する前にご確認ください —

Q1 「入/切」ボタンを押しても、電源が入らない。

A 電源プラグが抜けていませんか。

電源プラグをコンセントに確実に差し込んでください。

Q2 「スタート/取消」ボタンを押しても動作しない。

A 豆容器の中の挽き目調節ダイヤルがしっかりと取りついていますか。

挽き目調節ダイヤルを確実に取り付けてください (8ページ)。

Q3 運転が途中で止まった。

A ドリップ完了後、連続して運転していませんか。

連続して運転する場合は、5分以上冷ましてください。

Q4 コーヒーが抽出されない。

A1 給水タンクに水が入っていますか。

給水タンクに、作るコーヒーのカップ数に応じた分量の水を入れてください。

A2 給水タンクが正しく取り付けられていますか。

給水タンクを正しく取り付けてください。

Q5 コーヒーがすべて落ちきらず、バスケットに残る。

A コーヒー豆の種類や使用量によっては、ドリップ終了後もバスケットの中にコーヒーが残る場合があります。その場合は、ドリップが止まるまでお待ちください。

Q6 バスケットからコーヒーがあふれる。

-
- | | | | |
|----|---------------------------------------|---|----------------------------|
| A1 | フィルターが取りつけられていますか。 | > | フィルターを正しく取りつけてください。 |
| A2 | 30g (スプーン約5杯)以上のコーヒー粉をバスケットに入れていませんか。 | > | 正しい量のコーヒー粉をバスケットに入れてください。 |
| A3 | しずくもれ防止弁にコーヒーの粉が詰まっていますか。 | > | しずくもれ防止弁をご使用ごとにお手入れしてください。 |
| A4 | コーヒーサーバーが正しくセットされていますか。 | > | コーヒーサーバーを正しくセットしてください。 |
-

Q7 挽いたコーヒー粉がバスケットにたまらない。

-
- | | | | |
|---|----------------------------|---|------------------------|
| A | ミル内部にコーヒー豆やコーヒー粉が詰まっていますか。 | > | ミルのお手入れをしてください(28ページ)。 |
|---|----------------------------|---|------------------------|
-

Q8 コーヒー豆が挽けない。

-
- | | | | |
|---|----------------------------|---|------------------------|
| A | ミル内部にコーヒー豆やコーヒー粉が詰まっていますか。 | > | ミルのお手入れをしてください(28ページ)。 |
|---|----------------------------|---|------------------------|
-

Q9 ミルがすぐに停止する。

-
- | | | | |
|---|----------------------------|---|------------------------|
| A | ミル内部にコーヒー豆やコーヒー粉が詰まっていますか。 | > | ミルのお手入れをしてください(28ページ)。 |
|---|----------------------------|---|------------------------|
-

Q10 ミル上側が本体からはずれない。

-
- | | | | |
|---|-----------------------------|---|---|
| A | コーヒー豆を挽いている途中でミルが停止していませんか。 | > | ミルを動作させながら、挽き目調整ダイヤルを粗挽きに合わせ、コーヒー豆を挽く音がなくなるまで動作させてください。 |
|---|-----------------------------|---|---|
-

Q11 コーヒーの味が異常に薄い/濃い。

- A1 コーヒー粉、水の量は合っていますか。 > 正しい量のコーヒー粉と水の量を入れてください。
- A2 操作部下側にコーヒー粉が付着していませんか。 > 操作部下側のお手入れをしてください(26ページ)。

Q12 お湯の出が悪い/ドリップに時間がかかる。

- A 本体内部に水アカなどが付着して汚れていませんか。 > 水アカなどの汚れがひどくなると、お湯の出が悪くなります。クエン酸洗浄を行ってください(27ページ)。

Q13 ドリップするとプラスチック臭がする。

- A 使いはじめのうちは、本体のプラスチック部分が熱で温められることにより、プラスチック特有のにおいがすることがあります。
お使いになるうちに少なくなります。気になる場合は1～2回水だけでドリップしてからお使いください。それでも気になる場合は、クエン酸洗浄を行ってください(27ページ)。

Q14 しずくもれ防止弁が外れた。

- A 必要な部品(パッキン、バネ)が不足していないことを確認して、「しずくもれ防止弁が外れたときは」(29ページ)を参照し、取りつけてください。
部品を紛失した場合は、お買い上げの販売店またはシロカサポートストアでドリッパーをお買い求めください。

Q15 電源コード・電源プラグ・保温プレートに損傷が見られる。

- A 直ちに使用を中止して、お買い上げの販売店またはシロカサポートセンターへご連絡ください。

Q16 本体の部品や、コーヒーサーバーなどを破損してしまった。

- A お買い上げの販売店またはシロカサポートストアでお買い求めいただき、新しいものと交換してください。

Q17 エラーメッセージが表示される。

- A 「E1」、「E2」が表示される。 > 故障の可能性があります。電源コードを抜いて直ちに使用を中止して、お買い上げの販売店またはシロカサポートセンターへお問い合わせください。

| 仕様

| | |
|-------------|-------------------------------|
| 品名(型番) | コーン式全自動コーヒーメーカー (SC-C111) |
| 電源 | 交流 100 V、50/60 Hz |
| 消費電力 | 750 W |
| 質量(約) | 4.0 kg (付属品を除く) |
| 外形寸法(約) | 幅 16 cm × 奥行 27 cm × 高さ 39 cm |
| 抽出方式 | ドリップ方式 |
| 最大使用水量 | 540 ml |
| 電源コードの長さ(約) | 1.2 m |
| 付属品 | ペーパーフィルター (5枚)、計量スプーン、お手入れブラシ |
| 原産国 | 中国 |

重要

- この製品は、日本国内用に設計・販売しています。日本国外では使用できません。海外での修理や部品販売などのアフターサービスも対象外となります。

| 部品・消耗品

劣化・消耗したり、紛失してしまったときは、お買い上げの販売店、またはインターネットでお買い求めください。

プラスチック部品やパッキン類はご使用にともない、傷んだり摩耗したりします。

| 部品名 | 部品コード | 部品名 | 部品コード |
|---------------------|-----------|-----------|-----------|
| コーヒーサーバー (ガラス容器) | SC-C111GP | バスケット | SC-C111BK |
| 給水タンク(取り外し式) | SC-C111KT | ドリッパー | SC-C111DR |
| 豆容器ふた | SC-C111LB | ドリッパーふた | SC-C111LD |
| 挽き目調節ダイヤル | SC-C111AD | 計量スプーン | SC-C111KS |
| ミル上側 | SC-C111ML | お手入れブラシ | SC-C111BR |
| | | ペーパーフィルター | SC-C111PF |

| アフターサービス

▶ 保証書(裏表紙)

裏表紙に添付しています。お買い上げ日と販売店名の記入をご確認いただき、販売店からお受け取りください。保証書はよくお読みになり、大切に保管してください。

▶ 修理を依頼される時

取扱説明書の内容をご確認いただき、故障が疑われる場合には販売店、またはシロカサポートセンターにお問い合わせください。

保証期間中(お買い上げ日から1年未満)の修理

保証書の規定により、無料で修理いたします。商品に保証書を添えてお買い上げの販売店、またはシロカサポートセンターまでご相談ください。

保証期間が過ぎている(お買い上げ日から1年以上)修理

修理によりお使いになれる製品は、お客様のご要望により有料で修理いたします。お買い上げの販売店、またはシロカサポートセンターまでご相談ください。

▶ 保証期間

お買い上げ日から1年間となります。

▶ 補修料金のしくみ

補修料金は技術料(故障した商品の修理および部品交換などにかかる作業料金)と部品代(修理に使用した部品の代金)などで構成されています。

▶ 補修用性能部品の最低保有期間

このコーン式全自動コーヒーメーカーの補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後5年です。

その商品の機能を維持するために必要な部品を性能部品といえます。

▶ 補修部品について

補修部品は部品共通化のため、一部仕様や外観色などが変更となる場合があります。

お客様ご自身での修理は大変危険です。絶対に分解したり手を加えたりしないでください。

長年ご使用のコーン式全自動コーヒーメーカーの点検を!

- 定期的に「安全上のご注意」を確認してお使いください。誤った使いかたや長年のご使用による熱・湿気・ほこりなどの影響により、部品が劣化し、故障や事故につながることもあります。
- 電源プラグやコンセントにたまっているほこりは取り除いてください。

お客様相談窓口

ご相談・ご依頼

修理、使いかた、お手入れなどに関するご相談・ご依頼は、下記へご連絡ください。

シロカサポートセンター

▶ 電話 ナビダイヤル  **0570-001-469**

※上記番号がご利用いただけない場合 **03-3234-8800**

▶ 受付時間 **10:00 ~ 17:00** (弊社指定休業日を除く。詳しくはホームページをご覧ください)

おねがい

- 通話中の場合、しばらく経ってからおかけ直してください。
- 時間帯によっては電話が混み合い、つながりにくい場合がございます。
- サポートセンターの電話番号、住所は予告なく変更することがあります。

▶ ホームページ <https://siroca.co.jp/> ※「お客様サポート」のページからお入りください。

部品・消耗品のご購入

部品・消耗品は、販売店のほかにインターネットでもご注文いただけます。
詳しくは下記のホームページをご覧ください。


<https://siroca.jp/>

お客様の個人情報のお取り扱いについて

- シロカ株式会社(以下「弊社」)は、お客様の個人情報をお客様からの対応や修理およびその確認などに利用させていただき、これらの目的のためにご相談内容の記録を残すことがあります。
- 次の場合を除き、弊社以外の第三者に個人情報を提供することはありません。
 - (a) 修理やその確認、業務を委託する場合
 - (b) 法令の定める規定に基づく場合

保証書

本製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本書は大切に保管してください。
お買い上げ日から保証期間中に故障が発生した場合は、本書と製品を併せた状態で、お買い上げいただいた販売店、もしくは弊社サポートセンターまでお問い合わせください。

| | |
|---|--|
| 型番 ：SC-C111 | ご購入日 ： 年 月 日 |
| 保証期間 ：お買い上げ日より本体1年間 | 製造番号 ： |
| お客様 ： ふりがな | 販売店 ：店名・住所・電話 |
| お名前 | |
| ご住所 | |
| お電話 | ※購入日を証明するレシートまたは送り状などを必ず添付してください。 証明がない場合、保証対象にならない場合があります。 |
| シロカサポートセンター 電話：ナビダイヤル  0570-001-469 ※上記番号がご利用いただけない場合 03-3234-8800 受付時間：10：00～17：00 (弊社指定休業日を除く。詳しくはホームページをご覧ください) ホームページ https://siroca.co.jp/ | シロカ株式会社 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2丁目4番地 東京建物神保町ビル5F |
| <p>この保証書は、本書記載内容で無償修理をおこなうことをお約束するものです。 お買い上げの日から保証期間中に、取扱説明書、本体ラベル、その他の注意書きに従った正常な使用状態で故障した場合には、本書記載内容に基づき当社が無償修理いたしますので、商品と本保証書をご用意のうえ、お買い上げいただいた販売店、もしくはサポートセンターまでご依頼ください。</p> <p>1. 保証期間内でも次のような場合には有償修理となります。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 使用上の誤り、または改造や不当な修理による故障または損傷。(2) お買い上げ後の取り付け場所の移動、落下、引っ越し、塩害、輸送などによる故障または損傷。(3) 火災、地震、風水害、落雷、その他の天災地変ならびに公害や異常電圧、その他の外部要因による故障または損傷。(4) 車両、船舶への搭載や、極端な高温、低温、多湿、埃の多い場所などで使用された場合の故障または損傷。(5) 一般家庭以外（例えば業務用など）で使用された場合の故障または損傷。(6) 本書のご提示がない場合。(7) 本機のご購入を証明するレシート等の証明書が無く、本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名が確認できない場合あるいは字句を書き換えられた場合。(8) 樹脂加工やメッキの摩耗や打痕、プラスチック部の損傷。(かすり傷、へこみなどを含みます)(9) 高温多湿の場所など保存上の不備、経年劣化、自然消耗による瑕疵の場合。(10) 腐食による故障、及び損傷(11) 故障の原因が本製品以外（電源など）にあって、それを点検、修理した場合。(12) フィルター、バッテリーなどの消耗品の場合。(13) 日本国外で使用された場合。 <p>2. お買い上げ店などへご持参いただく際の交通費、サポートセンターへご送付いただく際の送料、諸掛りはお客様のご負担となります。</p> <p>3. 故障の状況その他の事情により、修理に代えて製品交換をする場合があります。</p> <p>4. 修理に際して再生部品、代替部品を使用する場合があります。また、修理により交換した部品は弊社が任意に回収のうえ適切に処理、処分させていただきます。</p> <p>5. 本書に基づく無償修理（製品交換を含みます）後の製品については、最初のご購入時の保証期間が適用されます。</p> <p>6. 故障によりお買い上げの製品を使用できなかったことによる損害については補償いたしません。</p> <p>7. 本製品のご使用や、本製品の故障に起因する付随的損害については、弊社では一切の責任を負いかねます。 ※本製品でのご使用により生じたその他の機器損害に対し、弊社は一切の責任を負いかねます。 ※本製品でのご使用、または使用不能から生じる付随的な損害に対し、弊社では一切の責任を負いかねます。</p> <p>8. 本書は再発行いたしませんので紛失しないよう大切に保管してください。</p> <p>9. 本書は日本国内においてのみ有効です。This warranty is valid only in Japan.</p> <p>この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無償修理をお約束するものです。 従って、この保証書によって保証書を発行している者（保証責任者）、およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。</p> | |

シロカの最新情報はこちらでチェック！



シロカ公式
Facebook
www.facebook.com/siroca.jp



シロカ公式
Instagram
www.instagram.com/siroca.jp/



部品・消耗品
ご購入
siroca.jp